

背景：印旛沼を取り巻く課題

- ・水質改善
- ・治水対策
- ・生態系の保全
- ・親水性の確保
- ・人と水との関わりの確保

印旛沼健全化の取り組みを貫く理念や基本姿勢

<基本理念>
**恵みの沼を
ふたたび**



<理想像>

<推進体制>

6者連携
による
計画推進



<行動原則～印旛沼方式～>

- ・水循環の視点、流域の視点で総合的に解決します
- ・印旛沼の地域特性を活かします
- ・みためし行動で進めます
- ・住民と行政が一体となって進めます
- ・行政間の緊密な連携を確保します

緊急行動計画

(平成16年度～平成21年度)

- 特徴
- 印旛沼の水循環健全化に向け、当面できる取り組みを効率的かつ集中的に実行していく計画
 - モデル地域におけるみためし行動※を通して、取り組みの効果を把握

4つの目標**5つの目標****評価指標**

水質(COD)	水質(清澄性)	アオコ発生	湧水
利用者数	水生植物	在来生物種	水害安全度

9つの評価指標

水質(COD・クロロフィルa)	清澄性	アオコ	湧水	におい	水道に適した水質(2-MIB、トリハロメタン生成能)
利用者数	生き物	水害			

対策

- 平常時の水量を回復させる取組み
- 水質を改善する取組み
- 健全な生態系を保全・復元する取組み
- 水辺の親水性を向上させる取組み
- 人と水との関わりを強化する取組み
- 水害被害を軽減する取組み
- 水循環の実態解明に向けた取組み

101の対策

- 平常時の水量を回復させる取組み（地下水涵養量の確保／自然地の保全／地下水保全等）
- 水質を改善する取組み（点源負荷の削減／河川等における浄化／面源負荷の削減等）
- 健全な生態系を保全・復元する取組み（流域における生態系の保全・復元等）
- 水辺の親水性を向上させる取組み（親水性の向上等）
- 人と水との関わりを強化する取組み（人と水の関わりの強化等）
- 水害を軽減する取組み（印旛沼の治水安全度の上昇／流域の流出抑制等）
- 水循環の実態解明に向けた取組み（水循環の現状把握／研究、技術開発の促進等）
- 財源を確保する取組み（経済的措置等）

橙色は、緊急行動計画から新たに追加した項目

重点対策

雨水を地下に浸透させます	家庭から出る水の汚れを減らします	環境にやさしい農業を推進します	湧水と谷津田・里山を保全・再生し、ふるさとの生き物を育みます	水害から街や公共交通機関を守ります
--------------	------------------	-----------------	--------------------------------	-------------------

8つの重点対策群

雨水を地下に浸透させます	家庭から出る水の汚れを減らします	環境にやさしい農業を推進します	湧水と谷津田・里山を保全・再生し、ふるさとの生き物を育みます	水害から街や公共交通機関を守ります	親しみのある水辺を創造します	環境学習、流域市民の自主的な行動を活発化します	かつてあった水草を再生します
--------------	------------------	-----------------	--------------------------------	-------------------	----------------	-------------------------	----------------

取組指標

●雨水浸透マスの設置基数	●下水道普及率（リン除去型）高度処理型合併序処理浄化槽利用人数	●ちばエコ農業による耕作面積	●特定外来生物の駆除	●河道整備延長	●親水拠点の整備箇所数	●水環境をテーマとした環境学習実施学校数	●WEBサイトいんばぬま情報広場のアクセス数
--------------	---------------------------------	----------------	------------	---------	-------------	----------------------	------------------------

ワーキングを中心とした取組展開

●9つのみためし行動（モデル地域のとりくみ）	市街地・雨水浸透系 加賀清水湧水の復活等	生活系 生活排水対策グッズの配布等	農地系 適正施肥による収量の変化把握等	生態系 流域の水草の分布把握	河川整備計画に基づき実施
	学び系 モデル校への支援、市町村みためし実施 教員研修会等	市町村みためし モデル校への支援、市町村みためし実施 教員研修会等	冬期湛水 水田の冬期湛水による効果確認	企業系 企業と連携した取組み	印旛沼連携プログラム 市民・企業・行政の連携による取組み

ワーキングを中心とした取組展開

- わいわい会議 住民と行政の意見交換の場（のべ9回実施）
- 再生行動大会 取組を広く住民に知つもらう場（年1回、計7回実施）
- 環境フェア

河川事業計画（平成20年～）

植生帯整備、（水位変動）、侵略的外来生物の防除、浚渫、大和田排水機場運転方法の見直し、（ウェットランド整備）
※カッコ内は未実施

各ワーキングの取組経緯及び連携の視点

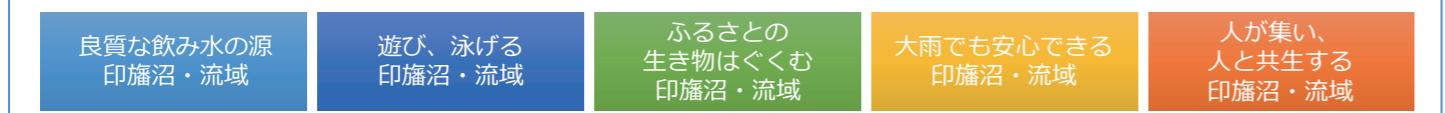
重点対策群	雨水を地下に浸透させます	家庭から出る水の汚れを減らします	環境にやさしい農業を推進します	かつてあった水草を再生します	湧水と谷津田・里山を保全・再生し、ふるさとの生き物をはぐくみます	親しみのある水辺を創造します	環境学習、流域市民の自主的な行動を活発にします	
WGの目的	(浸透WG) 雨水浸透対策及び市街地面源負荷削減対策を推進する ★湧水を増やす／市街地からの表面流出による汚れを減らす	(生活排水WG) 生活排水対策を推進する ★家庭から出る水の汚れ（特にりん）を減らす	(農業WG) 環境にやさしい農業を推進する ★農地から出る水の汚れ（特に窒素）を減らす	(水草再生WG) 沈水植物群落の再生等に関する技術的検討を行う ★水草を増やすことで、沼の自浄作用を高める	(水質改善工法WG) 印旛沼の効果的・効率的な水質改善手法に関する技術検討を行う ★効果的な対策立案し水質を改善する。	(生態系WG) 流域生態系の保全・再生を推進する ★多様な生態系が持つ調整機能（水質浄化含む）を回復させる	(水と地域のネットワークWG) 印旛沼及びその周辺利用を活性化させる地域的な仕組みである「水と地域のネットワーク」の形成を推進する ★印旛沼を中心とした地域活性化を通して、印旛沼に目を向けてもらう／流域の多様な主体が連携して取り組むための機運を高める	(学びWG) 印旛沼環境学習を推進する ★印旛沼に対する市民の理解や自主的な行動を促す
H25迄の取組成果	①雨水浸透マスの効果確認 印旛沼ルール策定 ②調整池改良の効果確認 調整池改良の手引き作成 ③市町の雨水浸透対策・市街地面源負荷削減対策の事例把握	①市町の生活排水対策の現状把握 ②浄化槽におけるりん除去剤の開発、効果の検証等	①適正施肥により収量への影響が少ないことを実証 ②ちばエコ農産物の普及促進に関する課題整理	①沈水植物の再生（種の系統維持） ②沈水植物再生等に関する知見蓄積 ③抽水植物の量的拡大	①水質形成機構の整理・解明 ②第1期における水質改善対策の立案	①水草マップの作成（ほぼ全流域で水草の分布状況把握） ②ナガエツルノゲイトウ管理計画(案)の作成	①かわまちづくり計画骨子の作成 ②連携主体の抽出 ③ウォーキングマップ・ナビマップの作成	①モデル校での環境学習の実施（12校）、教員研修会の開催（7回） ②教材ツールの作成
取り組み目標と達成状況	指標H24まで ①雨水浸透マスの設置 ②透水性舗装の整備面積： 基数：4.8万基 増 ③貯留施設の整備量： 20万m ² 増 8万m ³ 増	H24実績 ①4.0万基 増 ②15.6万m ² 増 ③4.8万m ³ 増	H27目標 ①8.4万基 増 ②35万m ² 増 ③14万m ³ 増	下水道普及率：80.5% 高度処理型合併浄化槽利用人数：8%	①78% ②10%	①684ha ②481件	植生帯整備面積（延長）：4,571m 2,294m 8,000m	特定外来生物の駆除： 侵入・拡大させない ガサガメ：320頭駆除 ガエルガサ：670m ² 防除 侵入・拡大させない 1箇所以上
取組の問題点	①雨水浸透マスの設置が普及しない ②調整池改良の取組が広がらない ③雨水浸透マス、調整池改良の対策だけでは限界がある	①「りん除去型」や「市町設置型」の浄化槽整備が進まない／浄化槽の適正管理が不十分 ②りん除去剤実用化に向けた障壁がある（コスト、使いやすさ等）等	①流域の農家が適正施肥実施に取り組むための動機付けが不足 ②ちばエコ農産物普及促進に向けた、生産・流通・消費の連携不足	①沈水植物の量的拡大に長期必要 ②食害等の阻害要因への知見不足	①すべての水質形成機構が解明出来れている訳ではない ②生態系に影響を及ぼす動植物に対する具体的な対策がない	①継続した生物データの収集体制が不足 ②生態系に影響を及ぼす動植物に対する具体的な対策がない	①計画の実効性が担保できない ②持続可能な取組体制をつくる必要がある	①モデル校の取組みが流域に広がらない ②教員への支援体制が不十分 ③環境学習を支える人材不足
今後の取組方針	①印旛沼ルールの活用による雨水浸透マスの普及促進／浸透対策の条例化検討 ②調整池改良の推進③雨水浸透マス、調整池改良以外の対策検討	①市町設置型の浄化槽整備事業の推進／意識啓発・情報共有の強化 ②りん除去剤の実用化 ③生活排水対策の制度化検討	①環境にやさしい農業に取り組むためのインセンティブ確立 ②生産・流通・消費の連携による、環境にやさしい農産物の普及	①短中期、長期と時間軸を考慮した水質改善の立案 ②食害防止シエルター等の対策の試行	①②水質形成機構を踏まえた効果的な水質改善対策の検討 ②生態系に影響を及ぼす動植物に対する具体的な対策の推進	①生物データの収集方法の検討 ②生態系に影響を及ぼす動植物に対する具体的な対策の推進	①かわまちづくり計画の登録 ②上記計画に基づくハード整備、ソフト施策の実施	①環境学習を支援する仕組みづくり ②佐倉学を活用した印旛沼環境学習との連携
H26取組	①民間企業（販売店舗や建築確認審査機関等）との連携による印旛沼ルールや補助制度の周知 ②船橋市が実施する調整池改良のサポート ③市町が実施している透水性舗装等の状況把握	①市町の浄化槽整備事業の実情・課題把握／浄化槽の適正管理に対する住民への意識啓発 ②りん除去剤の実用化に向けた検討	①②キレイな印旛沼を目指す農産物を食べようプロジェクトの推進	①水質改善対策の再抽出、モデルシミュレーション ②食害防止シエルターの簡素化・大型化	①②水質改善対策の抽出、効果の把握	②ナガエツルノゲイトウ管理計画（案）の実践と更新／要管理植物の管理計画（案）の作成	①かわまちづくり計画案の作成及び国交省への登録申請 ②ソフト施策のモデル試行	①「印旛地区教育研究会環境教育研究部」と連携した教員研修会の実施 ②教材ツールの見直し ③佐倉学との情報共有、他市町への情報提供
推進に資する連携の視点（案）	①条例化に向けた検討（生活排水WG） ②③流域治水の観点での展開（市町等）	③条例化に向けた検討（浸透WG）	①②農業や食をテーマとした学習による理解促進（学びWG） ①②プロジェクトの総合企画、小売店との調整（全農、JA） ①②農産物の販売促進（水と地域NTWG、環境フェア）	①水質改善対策の総合的検討（水質改善工法検討WG等） ②植生帯の持続的管理（市民団体等）	①②水質改善対策の総合的検討（水草再生WG等）	①②生物データの収集・整理（学びWG、中央博物館、多様性センター） ②生物モニタリング（市町、研究機関等） ②農地等での対策（農家、土地改良区、農林部局） ②効果的な外来種の防除（水資源機構）	①関係者との調整（沿岸5市町関係課、水資源機構、企業、大学等） ②ハード・ソフトにおける民間活力の活用（企業、大学等）	①環境学習を担う人材育成に向けた講座開催等（印旛沼環境基金との連携）

印旛沼流域水循環健全化計画 第1期行動計画（案）における101の対策の中間レビュー

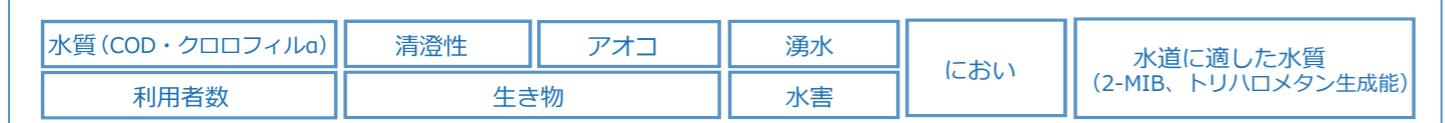
- ・第1期行動計画（案）では、5つの目標及び9つの目標達成状況を評価するための指標を設けている。
 - ・また、目標達成のために101の対策及び対策の進捗管理のための13の取り組み指標を設けている。
 - ・9つの評価指標及び13の取り組み指標は、毎年フォローアップを行っている。
 - ・第2期行動計画（案）の策定に向けて、101の対策すべての進捗状況を確認するため、101の対策の中間レビューを2013（H25）年度に実施した。

■第1期行動計画（案）での「101の対策」の位置付け

5つの目標：印旛沼・流域の再生目標



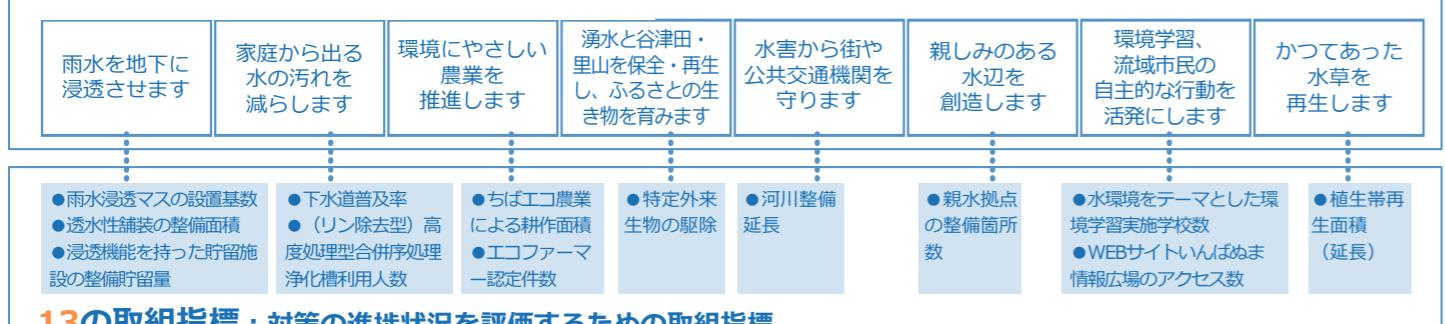
– 9つの評価指標：目標達成状況を評価するための指標 –



- 101の対策：目標達成のために必要な対策 -

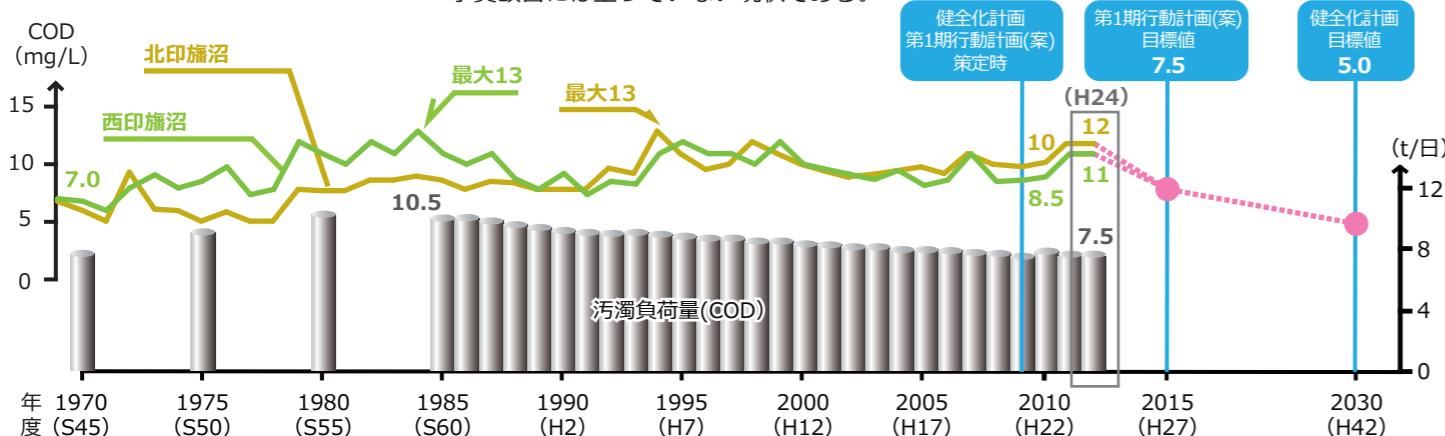
- 平常時の水量を回復させる取組み（地下水涵養量の確保／自然地の保全／地下水保全等）
 - 水質を改善する取組み（点源負荷の削減／河川等における浄化／面源負荷の削減等）
 - 健全な生態系を保全・復元する取組み（流域における生態系の保全・復元等）
 - 水辺の親水性を向上させる取組み（親水性の向上等）
 - 人と水との関わりを強化する取組み（人と水の関わりの強化等）
 - 水害を軽減する取組み（印旛沼の治水安全度の上昇／流域の流出抑制等）
 - 水循環の実態解明に向けた取組み（水循環の現状把握／研究、技術開発の促進等）
 - 財源を確保する取組み（経済的措置等）

- 8つの重点対策群：重点的に実施する8つの分野



100% of the time, we're here to help you get what you need.

- ・印旛沼の水質は近年悪化傾向となっている。
 - ・一方で、流域の発生汚濁負荷量は減少傾向であり、取り組みが進んでいるにもかかわらず、水質改善には至っていない現状である。



■5つの目標に関連する9つの評価指標

- ・各指標とも、概ね横ばいの評価となっている。

目標達成評価指標	2015 (H27)年度目標値	2012 (H24)年度の達成状況（赤字は前年度との比較）		
水質	★クロロフィルa: 年平均75µg/L以下 ★COD: 年平均7.5mg/L以下		横ばい:	西沼において、CODは11mg/L、クロロフィルaは120µg/Lと、濃度が上昇した2011 (H23)年度と同程度の値となっています。北沼においても同様の傾向となっています。
アオコ発生	★アオコの発生が目立たなくなる		横ばい:	COD、Chl.aは濃度が上昇した2011 (H23)年度と同程度の値ですが、観測されたアオコ発生としては、2011 (H23)度と比べて発生箇所数、日数ともに減少しました。
清澄性	★透明度が改善する:0.5m程度		横ばい:	2012 (H24)年度では、2011 (H23)年度とほぼ同じ0.1~0.3m程度で横ばいです。
におい	★臭気が少なくなる		横ばい:	藻臭や下水臭、かび臭等の臭気が2011 (H23) 年度と同程度、観測されました。特に、下水臭は冬期の発生が見られます。また、新たに腐敗臭が確認されました。
水道に適した水質	★2-MIB、トリハロメタン生成能が改善する		悪化傾向:	2011 (H23) 年度では、2-MIB・トリハロメタン生成能はそれぞれ0.3µg/L・0.148 mg/L、2012 (H24)年度では0.052µg/L・0.222 mg/Lでした。2-MIBは低下しましたが、トリハロメタン生成能は大幅に上昇しました。
利用者数	★増加する		横ばい:	総利用者数は2010 (H22)年度と比べ増加していますが、利用者数増減の指標となる「佐倉ふるさと広場」等の利用については、2010年度に比べ、横ばいやや減少傾向です。
湧水	★印旛沼底や水源の谷津で豊かな湧水が湧く		横ばい:	注目地点としている加賀清水湧水で2012 (H24)年度は2011 (H23)年度と同様に、枯渇した日はありませんでした。
生き物	★かつて生育していた沈水植物が再生する ★特定外来生物を侵入・拡大させない		横ばい:	2010 (H22)年度に引き続き、2011 (H23)年度においても植生帯整備工区において沈水植物や希少種が確認されました。ナガエツルノゲイトウの駆除、カミツキガメの駆除が継続して実施されています。
水害	★治水安全度が向上する		横ばい:	2012 (H24)年度は浸水による被害は報告されていません。

※2011（H23）年度は東日本大震災の影響により、利用者が大幅に減少しているため一昨年度と比較している。

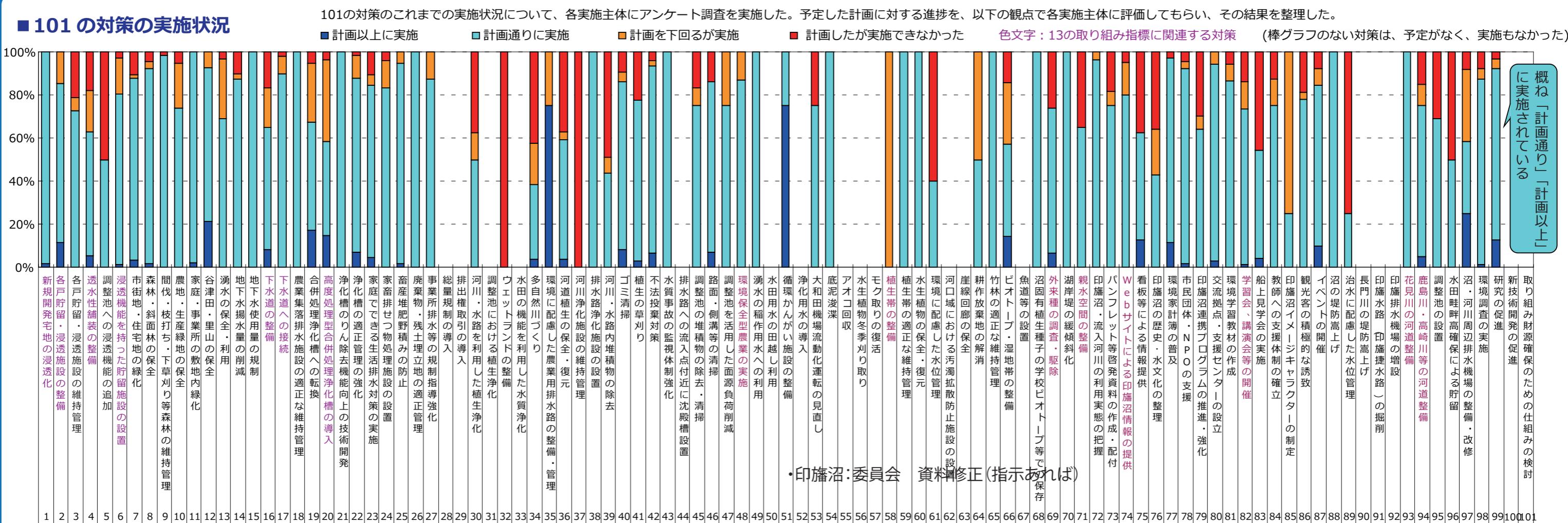
■ 13 の取り組み指標と進捗度

- ・2012（H24）年度の目標進捗度合（57%）に対して、各取組指標は、やや下回る進捗状況である。
 - ・取組によっては目標の半分に満たないものもある。

重点対策群	取り組み指標	現状 (H20年度)	第一期行動計画(案) (H21～H27年度： 7ヶ年)	H24年度実績	進捗度合		
					0%	50%	100%
①雨水を地下に 浸透させます	1 雨水浸透マスの 設置基数	約1.2万基/年	8.4万基増	1.0万基増 (Total 4.0万基増)	<div style="width: 47%;">47%</div>		
	2 透水性舗装の整 備面積	約5万m ² /年	35万m ² 増	3.2万m ² 増 (Total 15.6万m ² 増)	<div style="width: 45%;">45%</div>		
	3 貯留施設の整備 貯留量	約2万m ³ /年	14万m ³ 増	0.9万m ³ 増 (Total 4.8m ³ 増)	<div style="width: 34%;">34%</div>		
②家庭から出る 水の汚れを 減らします	1 下水道普及率	76%	84%	78%	<div style="width: 26%;">26%</div>		
	2 高度処理型合併 浄化槽利用人数	対象人口の約3% (約5,000人)	約17%	10%	<div style="width: 51%;">51%</div>	(リン除去は ほとんど普及せず)	
③環境に優しい 農業を推進 します	1 ちばエコ農業に による耕作面積	水稻：246ha 水稻以外：398ha	増加	水稻：288ha 水稻以外： 396ha		H20年から+39.7ha増	
	2 エコファーマー 認定件数	407件	増加	481件		H20年から+74	
④湧水と谷津・里山を 保全・再生し、ふるさとの 生き物を育みます	1 特定外来生物の 駆除	侵入・拡大	侵入・拡大させない	カミツキガメ320頭駆除 ナガエツリノゲイトウ 670m ² 駆除	<div style="width: 43%;">43%</div>	H20年からカミツキガメ 1,322頭駆除、ナガエツリ ノゲイトウ7,640m ² 駆除	
⑤水害から街や交通機関を 守ります	1 河道整備延長	約4,800m	約11,450m (約6,650m増)	766m増 (Total 2,835m増)	<div style="width: 43%;">43%</div>		
⑥親しみのある水辺を創造 します	1 親水拠点の整備 箇所数	0箇所	1箇所以上	水と地域のネットワーク WGにて検討中		検討をすすめている	
⑦かつてあった水草を再生 します	1 植生帯整備面積 (延長)	約760m	8,000m	延べ160m (延べ延長 2,294m)	<div style="width: 21%;">21%</div>		
⑧環境学習、流域市民の 自主的な行動を 活発にします	1 水環境をテーマと した環境学習実施 学校数	延べ8校 (モデル校として実施)	増加	57校		延べ205校 H21～H24年度の合計	
	2 WEBサイトいんぱ ぬま情報広場のア クセス数	約800アクセス/月	2,000アクセス/月 (1200アクセス増)	1,205アクセス/月 (405アクセス増)	<div style="width: 34%;">34%</div>		

印旛沼流域水循環健全化計画 第1期行動計画（案）における101の対策の中間レビュー

■ 101の対策の実施状況



■ 計画以上に実施できた対策とその理由（一部）

番号	対策名	計画以上の実施となった理由
2	各戸貯留・浸透施設の整備	市民の補助申請数の増加による予算増額 等
19	合併処理浄化槽への転換	予算確保・補助枠増（合併に伴う）
20	高度処理型合併処理浄化槽の導入	
42	不法投棄対策	
22	浄化槽適正管理の強化	職員直営により実施内容の充実 等
46	路面・側溝等の清掃	
12	谷津田・里山の保全	講習会の内容・回数の充実 等
40	ゴミ清掃	
41	植生の草刈り	
66	ビオトープ・湿地帯の整備	市民や事業者との協働を推進 等
69	外来種の調査・駆除	
87	イベントの開催	
8	森林・斜面林の保全	市民・地権者からの申請増 等
12	谷津田・里山の保全	
16	下水道の整備	要望の高い地域で整備を実施 等
23	家庭ができる生活排水対策の実施	市民への周知（HP、広報紙、イベント）
35	環境に配慮した農業用排水路の整備・管理	国からの交付金・補助金の活用
40	ゴミ清掃	

■ 対策推進のための工夫（事例）

- 雨水浸透マス販売所（ホームセンター）でのPR【佐倉市】
⇒住民、設置業者への啓発手段の拡大
- 維持管理（保守点検、清掃、法定検査）の一括契約の締結を条件とした、浄化槽設置補助【成田市】
⇒最初の手間だけで維持管理が自動的に継続されていく仕組みづくり
- 単独浄化槽の住宅が多い地域へ、まとめて転換促進のダイレクトメール等を送付【鎌ヶ谷市】
⇒地域・コミュニティ単位での啓発による効果向上
- 条例制定による過剰な施肥の削減【八街市、肥料等の大量な施用等の防止に関する条例：H25.9】
⇒条例制定による、農家への啓発効果向上
- 無料の土壤診断、施肥計画・栽培計画等の技術アドバイス【千葉市、船橋市等】
⇒1対1の対話による農家の確実な啓発
- 緊急雇用推進事業を活用した、将監川のナガエツルノゲイトウ駆除【栄町】
⇒様々な事業、補助制度を活用した予算の確保

■ 対策の進捗が悪かった理由と取組推進の方策案

対策例	対策の進捗が悪い理由	取組推進の方策案	内容
調整池への浸透機能追加 植生の刈り取り 等	該当事案（事業）がなかった		
不法投棄対策 調整池の堆積物除去・清掃 外来種の駆除 等	実施の必要性が生じなかった	①統一の仕組み、ルール等による展開	全県、または流域を跨いだ地域単位で、統一した仕組み・ルールがあると取組を進めやすい。
各戸貯留・浸透施設の維持管理 教師への支援体制確立	関係者との協議未実施、連携不足		
多自然川づくり 河川・水路を利用した植生浄化 学習会・講演会等での開催	事業の見直し・中止	②市町が持つ環境基本計画等での対策と、行動計画での対策を関連付け	市町等の実施主体が策定している計画等で、重点的に取り組んでいる対策があれば、行動計画と関連付けて、実施主体が取組を進めやすくなる。
下水道整備 路面・側溝等の清掃 WEBサイトによる情報提供 等	予算の削減・人員不足	③人員・体制、予算の確保	人員削減に対して、取組レベルを維持できるよう、健全化会議からの情報提供等のサポート 予算確保のため、様々な機関での補助制度や助成事業活用
	(全体的な考え方として)	④河川流域での課題を踏まえた、市町の行政区域単位等実施主体単位での取組推進	市町単位で課題を設定し、取り組む方が市町のニーズとも合致しやすく、取組を進めやすい。

■ 第2期行動計画（案）策定にむけて

<中間レビューのまとめ>

- 101の対策は概ね「計画通り」「計画以上」で実施されている。
一方、予定がなく実施もなかつた対策もある。
- 計画以上に実施できた対策もあり、また対策推進のために各主体で様々な工夫がなされていた。
- 市町にヒアリングで、101の対策には含まれていないが、市町がもつ計画等に位置づけられている対策もあることがわかつた。

<第2期に向けて>

- 市町等の実施主体が作成している計画と第2期の関連を図る。（対策の取り込み）
- 対策進捗のための工夫事例を他の実施主体に展開し、より対策の推進を図る。（対策の流域展開）

印旛沼・流域水循環健全化計画／第1期行動計画（案）の問題点と、第2期行動計画（案）の作成方針

健全化計画／第1期行動計画（案）の問題点

第2期行動計画（案）の方針

・健全化計画、第1期の記載内容が重複 ・湖沼水質保全計画や河川事業計画（案）等の関連計画と、計画期間等の整合がとれていない		・健全化計画は、H42年までを目標年にした印旛沼流域のマスタープラン ・行動計画（案）は、H42年までを5年ごとに区切ったアクションプラン																											
5つの目標		・沼の代表地点では取組の効果が発現しにくい																											
目標	良質な飲み水の源印旛沼・流域	遊び、泳げる印旛沼・流域	ふるさとの生き物はぐくむ印旛沼・流域	大雨でも安心できる印旛沼・流域	人が集い、人と共生する印旛沼・流域	・目標は踏襲	健全化計画（H21～42）																						
評価指標	水質(COD・クロロフィルa)	清澄性	アオコ	湧水	におい	・指標は踏襲 ・確実なモニタリング実施、市民が共感できる評価指標	・モニタリングの実施体制等、第1期での課題整理 ・評価地点の見直し ・確実なモニタリングの実施体制の構築（役割分担の明確化） ・市民が共感できる評価指標の設定																						
対策	9つの評価指標	利用者数	生き物	水害	水道に適した水質(2-MIB、トリハロメタン生成能)	・一般市民も巻き込んだモニタリングを期待したが普及せず	・対策の進捗に差がある ・市町で実施している対策で、101対策にない対策が存在																						
重点対策	101の対策	●平當時の水量を回復させる取組み（地下水涵養量の確保／自然地の保全／地下水保全等） ●水質を改善する取組み（点源負荷の削減／河川等における浄化／面源負荷の削減等） ●健全な生態系を保全・復元する取組み（流域における生態系の保全・復元等） ●水辺の親水性を向上させる取組み（親水性の向上等） ●人と水との関わりを強化する取組み（人と水の関わりの強化等） ●水害を軽減する取組み（印旛沼の治水安全度の上昇／流域の流出抑制等） ●水循環の実態解明に向けた取組み（水循環の現状把握／研究、技術開発の促進等） ●財源を確保する取組み（経済的措置等）	・実施項目の選択と集中 ・重点対策を抽出	・重点的に進める対策を抽出→重点対策に位置づけ ・市町等で実施されている対策も、新たに対策として位置づけ ・予定がない対策については、必要に応じ関係機関に対策を要請	健全化計画（H21～27）																								
取組指標	8つの重点対策群	雨水を地下に浸透させます	家庭から出る水の汚れを減らします	環境にやさしい農業を推進します	湧水と谷津田・里山を保全・再生し、ふるさとの生き物を育みます	水害から街や公共交通機関を守ります	親しみのある水辺を創造します	かつてあった水草を再生します	「重点」としての位置づけや取組みの視点を再整理	健全化計画（H28～32）																			
具体的な取組み内容	13の取組指標	●雨水浸透マスの設置基数 ●透水性舗装の整備面積 ●浸透機能を持つた貯留施設の整備貯留量	●下水道普及率 ●リン除去型高度処理型合併序処理浄化槽利用人数	●しば工農業による耕作面積 ●特定外来生物の駆除 ●エコファーマー認定件数	●河道整備延長	●河道整備延長	●水環境をテーマとした環境学習実施学校数 ●WEBサイトいんばぬま情報広場のアクセス数	●植生帯再生面積（延長）	・対策が主体任せで進捗管理が不十分 ・101対策との関連がわかりにくい ・対策の進捗が遅れている	・雨水を地下に浸透させます ●面減負荷削減を追加	家庭から出る水の汚れを減らします ●産業系の排水対策を追加	環境にやさしい農業を推進します ●湧水と谷津田・里山を保全・再生し、ふるさとの生き物を育みます	水害から街や公共交通機関を守ります ●親しみのある水辺を創造します ●地域活性化等の観点を追加	かつてあった水辺を再生します ●環境学習、流域市民の自主的な行動を活発にします ●かつてあった水草を再生します ●植生帯再生面積（延長）	重点対策の抽出に従つて指標を見直し	ワーキングによる重点対策の進捗管理を踏まえたとりくみ対策の検討	健全化計画（H28～32）												
	浸透WG	生活排水WG	農業WG	生態系WG	水と地域のネットワークWG	学びWG	水草再生WG	・浸透WG ●雨水浸透対策および市街地面源負荷削減の促進	・生活排水WG ●雨水浸透対策および市街地面源負荷削減対策の促進	・農業WG ●環境にやさしい農業の推進	・生態系WG ●流域生態系の保全・再生の促進	・水と地域のネットワークWG ●印旛沼と周辺利用活性化に向けた仕組みづくりの促進	・学びWG ●印旛沼環境学習の促進	・水草再生WG ●沈水植物群落の再生等に関する技術検討	・水質改善工法検討WG 印旛沼の効果的・効率的な水質改善手法に関する技術的検討	・市町連携WG 流域市町が主体となった「みためし行動」推進と取組みの流域展開	・環境体験フェア検討委員会 イベントを通して印旛沼の取組みを広く情報発信	・データセンター 各取組により得られたデータを集約・共有・発信 ※取組実績なし	・市民活動・企業連携WG 市民・企業の自主的な行動及び連携を推進 ※取組実績なし	・水質改善工法検討WG 印旛沼の効果的・効率的な水質改善手法に関する技術的検討	・市町連携WG 流域市町が主体となった「みためし行動」推進と取組みの流域展開	・環境体験フェア検討委員会 イベントを通して印旛沼の取組みを広く情報発信	・データセンター 各取組により得られたデータを集約・共有・発信	・市民活動・企業連携WG 市民・企業の自主的な行動及び連携を推進	河川事業計画(H20～)	植生帯整備、(水位変動)、侵略的外来生物の防除、浚渫、大和田排水機場運転方法の見直し、(ウェットランド整備) ※カッコ内は未実施	水質改善工法検討ワーキングにて検討	第6期湖沼水質保全計画(H23～27)	第7期湖沼水質保全計画(H28～32)